

四国奈半利炭田地質調査報告補遺

稻井 信雄*

Résumé

Nahary Coalfield in Kochi Prefecture.
(Supplement)

By

Nobuo Inai

The writer reported previously (Vol. 1 No. 2) on the geology of Nahary Coalfield. He writes here a supplementary explanation, having obtained such newer data as analytical table of the coals and the fossils which are found there.

高知県安芸郡安芸町附近のいわゆる奈半利炭田については、先に本所月報1巻2号にその概要を掲載したが、その後分析結果等新しい資料が整つたので、ここに追加し報告する。

地質図・地質柱状図等は先の報告を参照されたい。

1. 要 約

調査地内の夾炭層は高知県安芸郡安芸町の西方穴内地区、南東奈半利および登地区に分れて分布し、奈半利および穴内炭鉱は主要稼行炭鉱である。本層はいわゆる唐

浜層として知られている鮮新統の地層であり、下部より上部へ頁岩・砂岩・礫岩と岩相が変化する傾向があつて、炭層はその最下位の頁岩質の部分に、貝化石はその上位の砂岩の部分に多く含まれる。

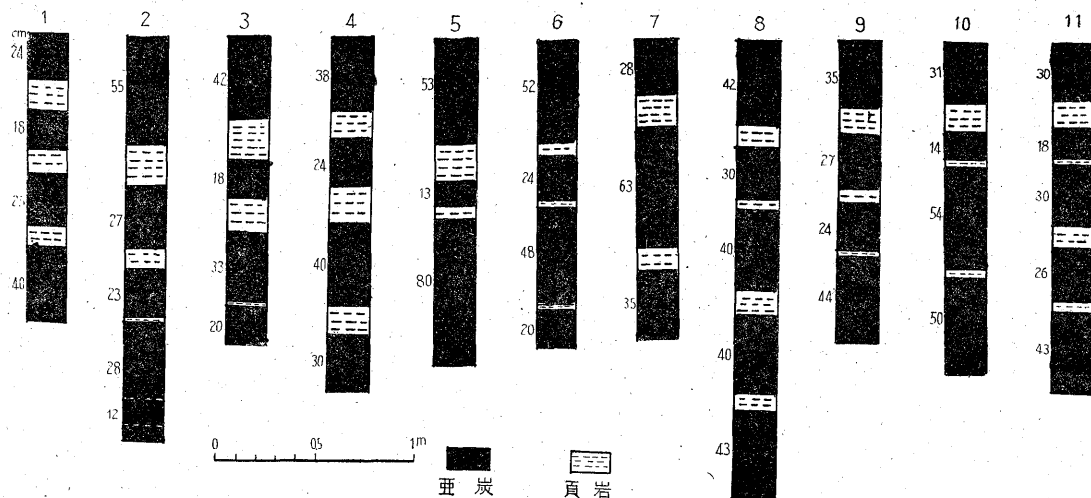
唐浜層は著しく褶曲した中生層上に不整合関係を以つて堆積し、夾炭部は、穴水・奈半利・登の三地域に分布している。

第1表

時代	層名	層厚 (m)	岩質
洪積世	海岸段丘, 堆積物	10	礫, 砂, 粘土
鮮新世	唐浜層	100	礫岩, 砂岩, 頁岩亜炭および介化石を含む
中生代	室戸層		頁岩, 砂岩
	吉良川層		頁岩, 砂岩
	奈半利川層		頁岩, 砂岩, 礫岩
	安芸川層		砂岩, 頁岩

唐浜層の層厚は調査範囲内では約 100m, 炭層は奈半利地区では厚さ 1.5~2.0m の稼行層が1層, その上位に厚さ 10cm, 40cm の2層がある。

しかし穴内地区では厚さ 5~40cm の炭層 1層を数えるに過ぎない。



第1図 奈半利炭礦炭柱図

* 四国駐在官

かように不規則な堆積の原因は、中生層上に堆積した唐浜層が、その後現在見られる段丘礫層の堆積する以前に、部分的に剝削されたためである。

炭質は木質亜炭と炭質亜炭であつて、炭自体の中、木質は約3分の1程度を占めている。

炭量は理論炭量 108,000 t である。

炭柱図第1図参照。

2. 化 石

唐浜層中部の砂岩中に含まれている化石は、第2表の如くである。

第2表唐浜層産化石表 (大山技官鑑定)

GASTROPODA

1. *Polinices (Glossaulax) reinianus* (DUNKER)
2. *Cymatium?* sp.
3. *Tonna olearium* (LINNÉ)
4. *Nassarius (Zeuxis) caelatus* (A. ADAMS)
5. *Nassarius (Zeuxis) caelatus dainitiensis*
MAKIYAMA
6. *Microfusius* sp.
7. *Siphonalia sikokuana* NOMURA
8. *Siphonalia* sp.
- 9.10. *Ancilla* sp.
11. *Lyrta* cf. *koyuana* (YOKOYAMA)
12. *Cancellaria pristiana* (YOKOYAMA)

13. *Cancellaria (Narona)* sp.
14. *Turricula subdecliis* (YOKOYAMA)
15. *Turricula* sp.
16. *Bathytoma luhdolfi* (LISCHKE)

SCAPHOPODA

17. *Dentalium (Antalis) weinkauffi* DUNKER

PELECYPODA

18. *Nuculana (Sacella) gordonis* (YOKOYAMA)
19. *Acila (Acila) "divaricata"* (HINDS)
20. *Glycymeris rotunda* (DUNKER) var.
21. *Anadara suzukii* (YOKOYAMA)
22. *Pecten (Patinopecten) tokyoensis* TOKUNAGA
23. *Amusiopecten praesignis* (YOKOYAMA)
24. *Venericardia panda* (YOKOYAMA)
25. *Joannisiella semiasperoides* (NOMURA)
26. *Fulvia mutica* (REEVE)
27. *Paphia* cf. *schnelliana* (DUNKER)
28. *Clementia vatheleti* MABILLE
29. *Aloidis (Anisocorbula) tozana* (YOKOYAMA)
30. *Thracia yokoyamai* OYAMA, MS.

COELENTERATA

31. *Flabellum* sp.

3. 分析結果

調査地内産 亜炭の分析は第3表の如くである。

第3表

昭和24年6月28日

地質調査所分析試験課

番号	採取場所	水分	灰分	揮発分	固定炭素	硫黄	発熱量	灰の色	比重
1	通道坑右三番坑	9.93	52.97	23.89	13.21	1.28	2270	灰 白	1.60
2	〃	11.04	34.23	37.49	17.24	1.25	3330	〃	1.37
3	〃	10.45	39.14	32.69	17.72	1.25	3170	〃	1.37
4	〃 ボンブ座	10.30	45.38	29.46	14.86	1.17	2640	〃	1.54
5	通道坑左三番坑	14.82	13.61	45.60	25.97	1.69	4430	淡 紫 褐	1.31
6	〃	12.60	24.91	41.64	20.85	1.58	3840	淡 褐	1.28
7	〃	12.04	43.33	28.64	15.99	1.34	3830	灰 白	1.43
8	〃	13.35	35.46	32.22	18.97	1.40	3400	淡 褐	1.45
9	〃 左二番坑	14.39	7.14	52.69	25.78	2.25	4750	紫 褐	1.28
10	〃	10.94	36.05	33.87	19.14	1.47	3470	淡 褐	1.34
11	〃 第三斜坑口	9.18	48.12	28.98	13.72	1.63	2600	淡 桃	1.48
12	上盤層露頭	11.02	39.20	30.16	19.62	1.59	2770	赤 褐	1.43
13	穴内炭礦	14.09	3.79	51.99	30.13	1.88	5440	淡 褐	1.20
14	〃	15.18	11.50	43.09	30.23	2.36	4790	灰 白	1.29